

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

2007年度の組織改編により、前期課程は3専攻14領域、後期課程は3専攻13領域で学生を募集し、入学定員を専攻別に改めたが、2008年度の研究科全体の入学者は前期課程が68名（入学定員64名）、後期課程が17名（入学定員20名）とほぼ定員通りの受け入れになっている。一般入試以外に、社会人や外国人を対象とした入学試験、また前期課程では二つのタイプの推薦入学試験を行うなど多様な選抜方式を採用してきた成果といえるが、入学定員を定めた専攻別に見ると前期課程、後期課程ともに文学言語学専攻では定員を満たしていない。これはここ数年の傾向であるが、入学生の水準を維持しつつ、学生確保の努力が求められる。具体的な方策については、当該専攻のみならず大学院問題検討委員会で検討したい。

聴講生については、学期毎に募集し、面接によって本人の学修目的や意欲の確認、履修科目の妥当性、基礎学力などを慎重に見極め、履修の許可を行っているが、2007年度春学期は19名延べ26科目、2007年度秋学期は18名延べ22科目、2008年春学期は18名延べ30科目の履修があった。科目等履修生の受け入れについては、まだ検討中であるが、2008年度中にこの制度化について一定の結論を得たい。

入試問題の適正化については改善してきていると言えるが、なお組織的かつ持続的な改善が可能な方策を摸索している。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2007年度の組織改編は、2003年度の学部改編を受けて研究科の教育・研究環境の充実・整備を目指して行われたもので、その点が入学者数の増減には直接関係せず、ほぼ例年通りであった。

聴講生の学修目的は、大学院進学、自己実現の二つに大別されるが、科目等履修生の受け入れを検討する中で聴講生のニーズの動向に配慮したい。

学内第三者評価

研究科全体の入学者を概ね定員どおり確保しており、大学院の定員充足率が問題となっている現状を鑑みると評価できる。進捗状況報告の記述にあるとおり、文学言語学専攻については定員を満たしておらず、大学院問題検討委員会での検討等定員確保の努力に期待する。

2007年度の組織改編による入学者数への影響についての記述が望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
聴講生はある一定の実績があるようですが、そのニーズの内訳は分析されているのでしょうか？